



コロナ禍での
海外大学進学について Part 2 (2021年4月発行)
現在の厳しい状況の中、海外で学ぶ学生達の勉強・生活の様子を聞いてみました！！

学生の声

~Student Voices~

2021

山田 加奈さん

出身高校：藤女子高等学校（北海道）

在籍大学/学部：英国国立バンガー大学 3年生

Film Studies and History



〈留学前〉

Q. 海外の大学に進学した理由をお教えてください。

A. 高校が IFU と提携を結んでいることを知り、英語を学ぶのではなく英語で何かを学びたいと思い、留学を決意しました。

Q. I.F.U をどのようにして知りましたか？I.F.U を通じて留学することに決めた理由を教えてください。

A. 出身校である藤女子高等学校を通じて知りました。ファウンデーション・コースを通して、英語を勉強しながらその土地で実際に学ぶことで、直接留学するより学べるものがたくさんあると考え、I.F.U を通じて留学することを決めました。

Q. I.F.U を通じて留学して良かったと思う点を教えてください。

A. 学部に進級する前に英語の基礎を改めて学びなおし、さらに大学で必要なエッセイを書くスキル、ノートを取るスキル、そして英国の授業のスタイルを学ぶことができました。

またファウンデーション・コース中のバンガーでの生活を通して、学部に進級する前に土地勘を身に付けることができました。

Q. バンガー大学を希望した理由。また、その大学を選んで良かったと思う点を教えてください。

A. 日本の大学や他の大学と違い、バンガー大学は学部やコースの種類が特に豊富で充実していることが大きな理由です。以前から映画学と歴史学に興味があり、どちらを選ぶか迷っていたところ、バンガー大学ではダブルメジャーとして両方を同時に学べ、どちらの学位も取得できるところに魅力を感じました。

Q. 保護者の方は、海外大学進学について、どう感じておられますか？

A. 母は最初から海外進学に前向きでしたが、父が進学を認め、応援してくれるようになったのは私がファウンデーション・コースのために渡英したあとでした。海外大学への志望理由や進学費用をプレゼンテーションにまとめて渡英前に発表などをしましたが、実際に英国で生活している様子を連絡しているうちに、背中を押してくれるようになりました。現在では両親ともに学業を応援してくれており、感謝してもしきれません。就職先が決まった際に連絡した時とても喜んでくれました。

〈ファウンデーション・コースについて〉

Q. ファウンデーション・コースで 1 年勉強してよかったと思うことは何ですか。

A. 大学に必要なアカデミックなスキルをクラスメイトと助け合いながら勉強できたことです。



Q. ファウンデーション・コースで学んだ内容で、特に大学学部に入ってから役立ったことは何ですか？

A. 英語の基礎、アカデミックなエッセイの書き方の授業が学部進級後とても役に立ちました。

Q. ファウンデーション・コース中の過ごし方を教えてください。

A. 基本的に月曜日から金曜日まで毎日授業があり英語漬けの生活を送ります。

休日などはホストファミリーや友人とお出かけをしたり、ホリデーシーズンには友人と旅行に出かけたりなどしました。私はバンガーでのファウンデーション修了後バンガー大学に進級をしたので、進級後もホストファミリーと定期的連絡を取っていました。お出かけをしたりお家に呼ばれて一緒にご飯を食べたりと、学部進級直後不安でいっぱいだった時にも常に支えていただきました。大学を卒業してもいつでもバンガーに帰ってくる場所はあるからねと言っただき、かけがえのない存在です。



〈コロナ禍の大学学部進級後・大学学部生活について〉

Q. コロナ禍の授業について教えてください。

A. 現在 3 年生（バンガー大学は 3 年制のため、3 年間で学位を取得・卒業となります）ということもあり、卒業論文以外の授業数も減り、全ての授業はオンラインで行われています。もちろん対面授業の方が好ましいですが、オンラインに移行後はほぼ全ての授業がライブでの授業後にその授業の録画がアップロードされるので課題の前や復習にとっても活用できており、そこはオンラインの利点だと思います。

大学は Semester 制をとっており、学部によりますが、私の場合は映画学部・歴史学部合わせて 1 Semester につき計 3 個、年間を通して 6 個のモジュールが必要になります。課題は Semester ごとに 3000 字程度のエッセイが 9 個とプレゼンテーション 2 個ほどが基本です。映画学部の方では学生同士でグループを組み、教授の代わりに 1 時間授業を行うという課題もありました。歴史学部の博物館学の授業では、自分でテーマを選び、エキシビションのデザインとディスプレイを考えてレポートにまとめるという課題がありました。

Q. (大学の授業があるときの) 平日の過ごし方、休日の過ごした方を教えてください。

A. コロナ禍以前の平日は、週に 12 時間程度レクチャーとセミナーがあり、隙間の時間を授業の予習復習にあてたり、ソサエティーに参加して友人と交流をしたりしていました。休日には少し遠出をしたり、一週間何を学んだのか復習などをしていました。コロナ禍では不要不急の外出はせず、オンラインで授業を受け、ソサエティーにも参加をして変わらず友人と交流を図っています。



Q. オンライン授業を受講して、オンライン授業のデメリットを補うためによく工夫されていると思った点、評価できるといった点を教えてください。

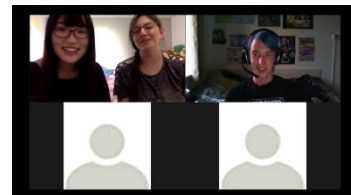
A. 上述のように、全ての授業が録画されており、授業後に全てアップロードされるので、もし回線が弱く聞き逃したところがあっても、授業後に確認できるのは利点だと思います。

Q. 滞在方法について教えてください。

A. 大学 1 年生の時は大学の寮に滞在し、2 年生からはプライベートの寮に滞在しています。

Q. コロナ禍ではソーシャルディスタンスがキーワードですが、他の学生との交流の状況はいかがですか？

A. コロナ禍で対面で友人と会うのは非常に困難ですが、大学のほぼ全てのソサエティーがオンラインでセッションを開催しているので、他の学生と交流を図ることも可能です。



Q. ファウンデーション・コース中にお世話になったホストファミリーとは、学部進級後の今も交流がありますか？

A. 上述のように、ファウンデーション・コース修了後も変わらず家族のように定期的に連絡をとっており、何か悩みがあったり困ったことがあった時に相談相手になってもらっています。

Q. コロナ禍での海外での大学生活となりましたが、現地（大学が所在するウェーズ地方バンガー市）の状況はいかがですか？現状では、海外大学進学は難しいですか？

A. イングランドに比べウェールズ、特にバンガー付近は 2020 年 3 月末にロックダウンに入る以前から現在まで発症のケースが他の地域に比べて少なく、私の周りで実際に感染した人は現在いません。

イングランドとウェールズ間でも、学業などの正当な理由がない限り移動が制限されており、イングランドからの感染拡大は抑えられている方だと思います。

スーパーマーケットなどでもマスク着用が義務付けられており、最低限の手洗いうがいなどに気をつけていれば感染する可能性は低いと思います。

Q. コロナ禍での学業・生活で、大変に感じていること、工夫していること、困っていること、気を付けていることなどあれば、教えてください。

A. オンラインでの授業なので、授業に集中するのが難しいことがありました。そういう時には一度休憩をとり、聞き逃してしまったところなどがあれば後で改めて授業の録画を見返しています。

Q. (日本にいる) 保護者の方は、コロナ禍での海外での勉強・生活に対し、どのように思っておられますか？

A. 英国で変異株が広まった際には日本での報道などがたくさんあったようで、両親共にとても心配してきていましたが、実際には周りであり変化はありませんでした。

Q. コロナにより価値観が大きく変わっています。コロナだからと閉塞的にならず、現在の環境で何かできるかを考えて動き出すといった動きはありますか？

A. 2020年3月末にロックダウンに入りなかなか状況が転向しないままの3年次への進級でしたが、大学ではStudent Union (学生連合)によるメンタルサポートや学習サポートなどがたくさんあり、困難な状況の中でも前向きに頑張っていこうという姿勢に刺激を受けました。

Q. コロナ禍での海外大学進学を検討している人へ、メッセージをお願いします。

A. コロナ禍でなかなか厳しい状況が続いていますが、海外大学でしか学べないこと、海外にいるからこそできることなどを考え、正規留学という素晴らしい機会を前向きに考えてみてください。

〈留学全般について〉

Q. 留学経験で得たものは何ですか？

A. ファウンデーション・コース、そして大学期間中に培った語学力はもちろんですが、精神的にもとても成長することができました。困難に直面しても負けずに努力ができる力です。

Q. 留学先で大変だったことは何ですか？

A. 渡英直後は人と話をしていて、相手が言っていることが理解できても自分の意見を言葉にするのにとっても苦労しました。そのため IELTS のスピーキングだけ悔しい結果が続き、挫けそうになりましたがファウンデーション・コースの先生、そして同級生たちが諦めずに何度も一緒に練習をしてくれたおかげでその次の IELTS でパスすることができました。

大学進学後は、歴史学部の方で現地学生との知識量の差に愕然としたことがありましたが、大学の教授はもちろん歴史学部の友人たちがお勧めの文献などを丁寧に教えてくれたおかげで、授業についていくことができました。

Q. 留学の経験を今後どのように活かして生きたいと思えますか？

A. 留学で培った精神力と語学力、そして視野の広さを活かし、柔軟に物事に取り組めるようになりたいと考えています。

Q. 留学となると、語学力、費用がネックになる人が多いようです。英語力に関する不安はどのように克服しましたか？いつごろ英語力に関する不安がなくなりましたか？

A. 英語力への不安は終わりがないように思えます。ある日授業のなかでたくさん発言ができて語学力の伸びを実感することもあれば、また別の日は自分の意見をうまく言えなくてモヤモヤして落ち込んだりすることが多々あり、ファウンデーション・コースを含めて約4年間英国滞在中ですが、未だにその繰り返しです。ただ、大学でいろんな人と交流する中で、英語を話す上で大切なのは文法でも語彙力でもなく、伝えたいという意思と積極性だということに気づくことができました。バンガー大学には世界中からたくさんのインターナショナル学生が来ており、大学生や教授たちも言語の壁を理解してくれているので、言葉に詰まってしまった時にも嫌な顔をせずに辛抱強く待ってくれます。また、バンガーはウェールズに位置しているため、ウェールズ語と英語のバイリンガル話者がたくさんおり、言語を学ぶ大変さを理解してくれているので、辛い思いをすることはありませんでした。人と会話をする中でうまく伝えられない悔しさなどもありますが、それも成長の大切な過程だと思います。

Q. 経済面（留学費用）に関して、奨学金制度などを使っていましたか？その他、経済面に関して感じていることがありましたら教えてください。

A. 留学費用ですが、ファウンデーション修了後にバンガー大学から毎年£2,000の返済不要の奨学金をいただいています。

〈就職活動について〉

Q. いつごろから、どのような形で就職活動を始めましたか？

A. 3年進級時にモジュールの一つとしてWork Placement（職業訓練）の授業をとり、大学の方で卒業生の進路のリサーチ、そして広報のお仕事を体験させていただきました。その際に英国での就職活動に関して学ぶことができ、その後本格的に就職活動を始めました。

Q. 英語力以外で評価されていると感じた点があれば、具体的に教えてください。

A. 大学期間中の学部外での活動（ソサエティーやワークプレイスメントでの経験）を評価していただきました。



〈その他〉

Q. 現在、どこで、どのような仕事をしていますか？留学経験が現在の仕事にどのように活かされていますか？または、留学経験を活かして、今後どのようなことをしたいと思っていますか？

A. 現在はまだ学部期間中というもあり、バンガーに残ってリモートワークでイングランドにあるゲーム会社で、日本市場向けのマーケティングの仕事をしています。今年6月に大学を卒業後はイングランドに引越しをしてフルタイムで働く予定です。

正直留学を決意した時、ファウンデーション・コースを修了した時でさえ自分が実際に英国で就

職できるとは全く想像していませんでした。会社の役員の方との英語での面接やプレゼンテーションを乗り越えられたのは、留学を通して培った精神力があったからだと思います。今後も様々な経験を積み、色々な業界で通用する力を身につけていきたいです。

Q. 海外の大学進学を考えている、または迷っている高校生へのメッセージをお願いします。

A. 日本の大学に進学して海外の大学に1年間交換留学という手も勿論あります。しかし1年間の留学だけでは世界で活躍するために必要とされる、文化的なコミュニケーションを汲み取る能力を得るレベルに到達するのは、はっきり言って難しいと思います。留学に興味があるけど踏み出すきっかけがないと感じている生徒さんもいるかもしれません。将来世界で活躍したい、英語を使う仕事がしたいと考えている方は、正規留学を考えていただきたいです。正規留学は自分の可能性を広げる素晴らしい機会です。皆様もこの素晴らしい機会を是非活かして、可能性を広げていって欲しいなと思います。

<2021年3月インタビュー>

Trinity Foundation Programme

日本事務局：一般社団法人 国際大学連合 (I.F.U)

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町 3 丁目 1-2 神戸ポートビレッジ 4 棟 201

TEL:050-3541-1880(IP) 078-303-6321 FAX: 078-303-6321

URL: <http://ifu-japan.net>